

「核なき世界」へどう進むか オバマ氏の側近が講演

吉田 文彦

40代の前半で、当時のオバマ大統領が主のホワイトハウスに、核政策立案チームの一員として加わった俊英。プライベートでは大の野球好きで、ニューヨークっ子だったことからヤンキースを応援する。広島を訪れた時には、カーブの応援に球場まで足を運んだ。普段の会話では冗談もたくさん織り交ぜながら、興味深い政権の裏話などを語ってくれる。

そんなジョン・ウォルフスタール元大統領特別補佐官が、8月24日に長崎大学文教キャンパスに足を運んでくれた。「核なき世界「へどう進むか」と題した講演会(核兵器廃絶長崎連絡協議会主催)で、核兵器に依存しない平和と安全の重要性を説いた。大学生や市民ら80人が参加し、質疑応答の時間には次々と質問の手があがった。

ウォルフスタール氏の話の中で、私が最も印象に残ったポイントは以下のような指摘だった。

オバマ氏が「プラハ演説」でも語ったように、「核なき世界」を実現するにしても、短時間ではそこにはたどりつけない。現在の米国の政権、米国とロシアの関係などを考えると、急速に核軍縮が進むとも考えにくい。

しかし、人々が核兵器に対する考え方を換え、それを反映する形で核廃絶に情熱を傾ける政治指導者が出てきた時に、「こうすれば核廃絶できます」という構想、政策を提示できるように準備しておく必要がある――。

迂遠に思えるかも知れないが、とても大切なポイントに思えた。

オバマ氏が核軍縮を進めきれないままホワイトハウスを去ったあと、「核なき世界」へのビジョンを牽引する政治指導者を失ったような空白感が世界を漂った。むしろ、だからこそ、だろう。今すぐに採用してくれる政治指導者がいなくても、そうした政治指導者が生まれ、そして増えていくことを後押ししながら、核廃絶への具体策を整理して、いつでも手渡せるようにしておく。被爆地、そして長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)のこれからの目標の大きな柱はそこにあるのではないか、と思った。

参加していただいた方々の多くが、アンケートに協力してくださった。その中に、「被爆者の質問も受けて欲しかった」という



講演するジョン・ウォルフスタール氏
(場所:長崎大学文教キャンパス内 写真:PCU-NO提供)



交流した学生とジョン・ウォルフスタール氏(中央)
(場所:長崎大学文教キャンパス内 写真:RECNA撮影)

趣旨の記載があった。できるだけ幅広い年齢層の皆さんの質問に答えられるようにつとめたつもりだったが、申し訳ない結果になってしまった。大きな反省点とさせていただきます。

講演の前、ウォルフスタール氏はナガサキ・ユース代表団を中心とする学生たち、約10人と、通訳なしで対話した。予定の時間を大幅に超えて話が弾み、講演開始の5分前になった。文字通り時間切れでお開きにせざるを得なかったが、世界トップレベルの核問題の専門家と直に話せたことは、若い世代にとって貴重な経験になったことだろう。

(よしだ ふみひこ、RECNA副センター長)

2018年6月12日の米トランプ大統領と北朝鮮キム・ジョンウン(金正恩)労働党委員長長の歴史的会談をうけて、RECNAでは、まず「米朝首脳会談と共同声明」に関する見解を6月13日に発表した。そこでは、つい半年前までいがみ合った両国が歴史的な対話を果たし、外交による非核化に踏み出したことの意義を強調した。一方、現段階では完全な非核化までの道筋が明確になったわけではなく、未解決の課題も山積みであることも指摘した。特に、「非核の制度化」と「平和の制度化」が重要と指摘した。

それを受けて、RECNA教授陣が各専門分野ごとに、米朝首脳会談の意義と今後の課題についてまとめたものが、RECNAポリシーペーパー(REC-PP-07: <http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10069/38424/1/REC-PP-07.pdf>) である(2018年7月発行)。第1章では、鈴木が、核武装した国が非核化するプロセスを法的拘束力のある形で検証した例はなく、朝鮮半島の非核化を検証するためには、「新たな制度を構築する必要がある」と指摘した。第2章では、広瀬副センター長が、「朝鮮戦争の終結には、米朝のみならず、韓国、中国も関与する必要がある、また平和条約の締結は在韓米軍や日本国内の駐留米軍の在り方にも影響を与える」と

分析している。第3章では、吉田副センター長が、地域の平和制度化のポイントとして、「信頼醸成の向上、危機管理システムの構築、軍備管理、そして経済力」の4点が重要と指摘した。最後の第4章では、梅林前センター長(客員教授)が、「北東アジア非核兵器地帯構想」は、「望ましいエンド・ピクチャーである」とし、「朝鮮半島の非核兵器地帯」に日本が参加することで、安定した地域のエンド・ピクチャーになると指摘している。

その後、米朝の非核化交渉は、順調に進んでいるとはいえない。北朝鮮はミサイル発射台を解体したと報じられたが、一方で秘密のウラン濃縮施設の存在が米国シンクタンク科学国際安全保障研究所(ISIS)から報じられている。こういった情報もあり、トランプ大統領はポンペオ国務長官を北朝鮮との交渉に派遣するのを中止してしまった。しかし、8月末時点では、交渉を中止する決定はなされておらず、南北会談も3回目(9月5日)に平壤での開催が予定されている。

短期的な動向に一喜一憂することなく、この流れを後戻りさせないよう、上記のような課題を解決すべく、忍耐強く交渉を続けていくことが望まれる。

(すずき たつじろう、RECNAセンター長)

ナガサキ・ユース代表团

図書館ギャラリー展

ナガサキ・ユース代表第6期生

原田 怜奈

ナガサキ・ユース代表团は、事後活動として2018年7月1日(日)~7月16日(月)までの間、長崎大学附属図書館で写真展示会を行いました。任命後からジュネーブ渡航前までの事前学習、渡航中の活動、報告会の様子を約50点の写真とキャプションで伝え、Peace Caravan隊に関する情報を載せた模造紙も2点展示しました。この展示会の目的は、ナガサキ・ユース代表团6期生の活動をより多くの市民に発信し、核兵器問題の認知を高め、若者の興味・関心を喚起することです。さらに、同年10月から始まる、ナガサキ・ユース代表团7期生の募集に向けた広報活動も兼ねて、実施に至りました。

展示内容は、2018年4月23日(月)~5月4日(金)の間にジュネーブ・スイスで開催されたNPT再検討会議第二回準備委員会での会議傍聴を軸とし、国際機関訪問やサイドイベント、平和出前講座なども盛り込みました。人の目の高さに合わせて写真を配置したり、写真パネルも見やすいようにカットしたりと、展示にも様々な工夫を凝らしています。見に来てくださった方々のアンケートからは、「活動がよく分かった」、「メン



写真展の様子

(場所:長崎大学附属図書館(文教キャンパス)内 写真:PCU-NC提供)

バーが楽しそうにしている良かった」、「他の場所でもやってほしい」などの意見をいただきました。

私たちは、核兵器問題のタテ(被爆者から次の世代へ)の継承は比較的注目されているにも関わらず、ヨコ(長崎から全国へ、日本から世界へ)の継承が不十分だと感じています。この展示会は今までのナガサキ・ユースを見ても初の試みでした

が、長崎の大学生を含む若者と長崎市民へのヨコの継承の一歩となれば嬉しい限りです。

(はらだ れな、多文化社会学部 3年)

※第2回ギャラリー展は、10月1日(月)から10月14日(日)、長崎大学附属図書館(文教キャンパス)にて開催予定です。

ナガサキ・ユース代表団

出前授業を通して

ナガサキ・ユース代表第6期生

三浦 大輝

ナガサキ・ユース代表団は、帰国後の活動の一環として、依頼を頂いた日本全国の学校へ赴き出前授業を行う活動をしました。私は、県内2校と県外4校の計6校を訪問し、それぞれの学校の要望に応じた出前授業を実施しました。6校で実施した授業を通して、地域によってどうしても『原爆の被害』を知る機会に差があることを再確認しました。長崎県内の中でも長崎市に近い学校の生徒は、「原爆の被害がどのようなものだったか」、「どれほど恐ろしいものなのか」を知る機会が学校教育やその他の場で多く設けられています。一方で対馬などの物理的に離れた地域にある学校では、学校教育の平和集会が原爆の被害を学び知る唯一の場でした。県外ともあれば、学校の社会科の授業でのみ多少触れるという状態です。このように、地域によって学べる事柄や材料、学校教育におけるカリキュラムに違いがでるのは当然のことです。

しかしながら、私は広島や長崎に原爆が落とされたから、その地域に住む人だけが深く考えればよいものだとは思いません。それは、福島の前原事故や自然災害の被害を大きく被った地域を考えればよくわかることだと思います。福島で前原事故があったからその被害を受けた人だけが考えればよいことなのか…。あるいは大地震があった地域は、その地域に住む人だけが対策をすればいい話なのか…。核兵器の問題も同じです。

原発を持つ地域は福島の事故から学び、今一度考えなおす必要があるでしょう。大震災においても、その地域の復興の



出前授業の様子

(場所: 平和教育公開授業 in 函館 写真: PCU-NC提供)

プロセスから学ぶべきことがたくさんあるでしょうし、自治体のハザードマップを見直したりすることも必要になると思います。

要は他人事としてとらえず、常にある事柄が本当に自分と関係ないことなのかを考え、情報を集めていくことが大事だということです。冒頭に話した地域によってできる学ぶ情報の差。核兵器の問題に関しては、ナガサキ・ユース代表団がその差を少しでも埋める活動に貢献できればと思います。こうした出前授業を通して、日本中のより多くの方が広島や長崎の被爆の実相や平和、現代の核兵器の問題を知り、考える人が多くなれば幸いです。

(みうら たいき、サセックス大学 環境開発学 進学)

RECNAの活動

2018年7月1日～2018年9月30日

- | | | | |
|----------|--------------------------------|----------|--|
| 7月4日(水) | ■諫早市立喜々津中学校平和学習(ナガサキ・ユース代表団) | 7月14日(土) | ■雲仙市立千々石中学校平和講座(広瀬副センター長) |
| 7月5日(木) | ■諫早市立諫早中学校平和学習(ナガサキ・ユース代表団) | 7月19日(木) | ■聖心女子学院高等科生徒7名来訪:(鈴木センター長) |
| 7月11日(水) | ■諫早市立喜々津中学校平和学習(ナガサキ・ユース代表団) | 7月20日(金) | ■長崎県立猶興館高校出前講座(広瀬副センター長) |
| 7月11日(水) | ■ベトナム交流人財招致事業講演(鈴木センター長) | 7月22日(日) | ■国際シンポジウム「平和への扉を開く」(広島国際会議場)参加(鈴木センター長) |
| 7月14日(土) | ■全国大学生協連「Peace Now」講演(鈴木センター長) | 7月28日(土) | ■国際平和シンポジウム2018「核兵器廃絶への道」(長崎原爆資料館)参加(吉田副センター長) |

RECNAの活動

2018年7月1日～2018年9月30日

- 7月30日(月) ■RECNAポリシーペーパー「米朝首脳会談の意義と今後の課題」発行に伴う記者会見(鈴木センター長、吉田副センター長、広瀬副センター長)
- 8月3日(金) ■埼玉県行田市平和事業(ナガサキ・ユース代表团)
- 8月4日(土) ■長崎原爆忌平和祈念俳句大会講演(広瀬副センター長)
- 8月7日(火)～8日(水) ■明治学院大学生とユースとの交流会(ナガサキ・ユース代表团)
- 8月8日(水) ■連合2018平和ナガサキ集会講演(長崎県立総合体育館)(鈴木センター長)
- 8月9日(木) ■対馬市平和集会(ナガサキ・ユース代表团)
- 8月10日(金) ■三重県四日市子ども向け平和学習講座「核兵器について考えよう」(ナガサキ・ユース代表团)
- 8月16日(木)～18日(土) ■神奈川県小田原市ワールドキャンプ in Odawara ～世界で羽ばたくナガサキ・ユース代表团と学ぼう～(ナガサキ・ユース代表团)
- 8月20日(月) ■創価高等学校「長崎フィールドワーク」講演(全炳徳教授)
- 8月21日(火)～23日(木) ■北海道函館市平和公開授業(ナガサキ・ユース代表团)
- 8月23日(木) ■長崎県日中韓青少年交流事業参加(ナガサキ・ユース代表团)
- 8月24日(金) ■特別市民セミナー「“核なき世界”へどう進むか～核軍縮に逆行するトランプ核戦略～」
講師: ジョン・ウォルフスタール
(米国オバマ政権・核政策担当大統領特別補佐官)
場所: 長崎大学文教キャンパスG-38
- 8月26日(日)～28日(火) ■北海道豊浦町「非核・平和の町宣言」講演会(ナガサキ・ユース代表团)
- 8月28日(火) ■2018年度版「世界の核弾頭データ」および「世界の核物質データ」しおり公開
- 8月29日(水) ■長野県松本市 松本ユースネットワーク来訪(ナガサキ・ユース代表团)
- 9月22日(土) ■平成30年度第3回核兵器廃絶市民講座 第3回「在日米軍と北東アジアの安全保障」
講師: 梅林宏道(RECNA客員教授)
場所: 国立長崎原爆死没者追悼祈念館
- 9月24日(月) ■核兵器廃絶日本NGO連絡会9.26「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」シンポジウム(東京)(ナガサキ・ユース代表团)

おしらせ

ナガサキ・ユース代表团第7期生募集

募集期間: 2018年10月15日(月)～11月1日(木)
 応募方法: 志望動機、履歴書を提出 ※様式はwebよりダウンロード
 主催: 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)
 詳細はwebをご参照ください。



<募集概要掲載webサイト>

ナガサキ・ユース代表团・Peace Caravan隊 第2回写真展
 若者たちの取組、ナガサキ・ユース代表团とPeace Caravan隊を写真にてご紹介します。第1回の模様は、本紙P2をご覧ください。

期 間: 2018年10月1日(月)～10月14日(日)
 場 所: 長崎大学附属図書館(文教キャンパス)
 開館時間: 平日 8:30～22:00 / 土、日、祝日 10:00～20:00

平成30年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界をめざして」

第4回 「岐路に立つ日本の非核」
 講 師: 太田 昌克(共同通信編集委員、RECNA客員教授)
 日 時: 2018年11月3日(土) 13:30～15:30
 場 所: 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ

第5回 「反戦主義者なる事通告申上げます」
 講 師: 森永 玲(長崎新聞論説委員長、RECNA客員教授)
 日 時: 2018年12月1日(土) 13:30～15:30
 場 所: 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ
 ※受講料は無料、参加申し込み不要。
 ※15:30～16:30「RECNAと語ろう」
 主催: 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

RECNA ニュースレター

長崎大学核兵器廃絶研究センター

第7巻2号 2018年9月30日発行

発行 長崎大学核兵器廃絶研究センター
 〒852-8521 長崎市文教町1-14
 Tel. 095-819-2164 Fax. 095-819-2165
 E-mail: recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp
 http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/

印刷 インテックス

©2018 長崎大学核兵器廃絶研究センター